

<個別実習>

- 演習：担当者会議への同行
 - アドバイザー担当ケース
 - 受講者担当ケース
- 演習：モニタリングへの同行
 - アドバイザー担当ケース
 - 受講者担当ケース
- 振り返り

担当者会議への同行

【目的】

担当者会議の進め方、および担当者間の調整のあり方を学びます。

【到達目標】

- 適切な担当者会議のファシリテートができる。
- 担当者間の調整ができる。
- 担当者会議録を適切に作成できる。

アドバイザー担当ケース

● 事前準備

- 会議出席者の事前承諾を得ます。
- 会議の議題、論点を受講者に伝えます。

● 同行

受講者は会議を傍聴します。

- 会議運営の流れや時間配分などを観察し、進め方を学びます。
- 参加者の発言や態度を観察し、質問のあり方を学びます。
- 記録の仕方を学びます。

受講者担当ケース

● 事前準備

- 会議出席者の事前承諾を得ます。
- 会議の議題、論点をアドバイザーに伝えます。

● 同行

受講者は会議を傍聴します。

- 会議運営の流れや時間配分などを観察し、進め方を学びます。
- 参加者の発言や態度を観察し、質問のあり方を学びます。
- 記録の仕方を学びます。

当日の振り返りと助言

- 受講者は当日記録を作成し、アドバイザーに渡します。
- アドバイザーは、当日記録にメッセージを記入し、受講者に気づいた点（進め方、質問・記録のあり方等）を伝えます。

【作成資料】

- ・ [様式 8 : 当日記録]
 - ② 担当者会議 (アドバイザーケース)
 - ④ モニタリング (アドバイザーケース)
- 作成した資料は保管し、最終日全体研修に持参します。

モニタリングへの同行

【目的】

モニタリングの進め方、事後調整のあり方を学びます。

【到達目標】

- ・ 適切なモニタリング (アセスメント) ができる。
- ・ 状況に応じた調整ができる。
- ・ モニタリング記録を適切に作成できる。

アドバイザー担当ケース

- 事前準備
 - ・ 利用者の事前承諾を得ます (同意書を取得)。
 - ・ 当該利用者の課題を受講者に伝えます。

- 同行
 - 受講者はモニタリングに同行します。
 - ・ モニタリングの仕方を観察し、進め方を学ぶ。
 - ・ モニタリング記録のまとめ方を学ぶ。
 - ・ モニタリング結果を受けた事業者調整の方法を学ぶ。

受講者担当ケース

- 事前準備
 - ・ 利用者の事前承諾を得る (同意書を取得)。
 - ・ 当該利用者の課題をアドバイザーに伝える (事前提出事例が望ましい)。

- 同行
 - アドバイザーはモニタリングに同行する。
 - ・ モニタリングの仕方を観察し、進め方を把握します。

当日の振り返りと助言

- 受講者は当日記録を作成し、アドバイザーに渡します。
- アドバイザーは、当日記録にメッセージを記入し、受講者に気づいた点（進め方、質問・記録のあり方等）を伝えます。

【作成資料】

- [様式 8 : 当日記録]
 - ③担当者会議（受講者ケース）
 - ⑤モニタリング（受講者ケース）作成した資料は保管し、最終日全体研修に持参します。

[記入例_当日記録]

【④モニタリング（アドバイザーケース）】

平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

所属 _____

氏名 _____

<p>今日の目標（目標設定用紙を参考に）</p> <ul style="list-style-type: none">・本人との会話の中で、本人の気持ちをききだしたり、次の課題を本人が気付くようにモニタリングしていくにはどうすればよいか、学んでいきたい。	<p>今日体験したこと</p> <ul style="list-style-type: none">・声掛けのやり方によっては、本人も自分の気持ちを伝えてくれる。・閉ざされた質問ではモニタリングも進まないし、本人との関係性もよくなるらない。
<p>1日終えた後の自己評価／気持ち</p> <ul style="list-style-type: none">・アドバイザーは本人の言葉に共感しながら話を聞いており、本人に質問するときも自分の気持ち等を添えながら会話をされていた。・相手の気持ちを受けとめている態度が伝わった。利用者本人にもそれが伝わったと思う。	<p>今日体験できず今後体験したいこと</p> <ul style="list-style-type: none">・ただ聞くだけでなく、理由を考えながら人の話を聞くこと。
<p>今日の気付き／学び</p> <ul style="list-style-type: none">・本人の変化を見逃さないように把握しているつもりでいたが、それが日常生活にどう影響を及ぼしていくかまで考えていなかったような気がした。・本人の状態を本人が聞き取る内容でモニタリングできていると満足しており、再アセスメントと課題抽出ができていなかった。	<p>自由活用メモ</p>

<p>実地アドバイザーメッセージ</p>	
<p>①良かったところ</p> <ul style="list-style-type: none">・相手の気持ちを受けとめること、本人の変化の日常生活への影響を考えることに気づかれたのは、良かったと思います。	<p>②より良くした方がいいところ</p> <ul style="list-style-type: none">・今後、日頃からサービス事業者や関係機関との関係づくりや情報交換を行い、利用者との信頼関係を深めておくと、モニタリングの内容が充実していくと思います。 <p>実地アドバイザー氏名 _____ XXXXX</p>

© 鈴木敏恵、「ポートフォリオとプロジェクト学習」（医学書院, 2010）をもとに改変

その他オプションメニュー

- 地域により、オプションメニューとして訪問診療・訪問看護への同行等が用意されている場合があります。メニューがある場合は、運営事務局の指示にしたがって研修を進めてください

<最終日全体研修>

- ・ 演習：受講者によるプレゼンテーション
- ・ 研修全体の振り返り
- ・ 修了証授与

【演習】プレゼンテーション

【目的】

研修で得た事、「気づき」を発表し、研修のアドバイザー・受講者で共有します。

【到達目標】

- 自分の考えを伝え、他社の経験を学びのあるものにします。
- 表現力やコミュニケーション力、学び合い、高めあう姿勢を身につけます。

事前準備

受講者はプレゼンテーション資料を作成します。

- 期間中に扱った1事例を選び、自分が研修で得たこと、共有したいことをA3用紙1枚程度にまとめ、プレゼンテーション資料を作成します。
- 様式や内容についての定めは特にありません。伝えたい内容を文字だけでなく、図やイラストを用いてもよいです。
- 可能であれば、受講者の所属事業所管理者にも参加を呼びかけます。

プレゼンテーション

- 受講者は作成したプレゼンテーション資料をホワイトボード等に掲示・発表し、質疑応答を行います。
- また、各受講者の体験内容・できたこと・できなかったこと・感情・今後の抱負を全体で共有します。

【提出資料】

- プレゼンテーション資料（受講者には、本調査事業の評価終了後、返却いたします）



プレゼンテーション風景（パワーポイントでの発表）



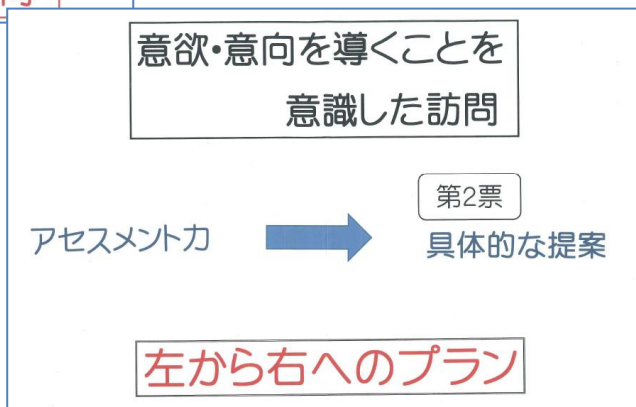
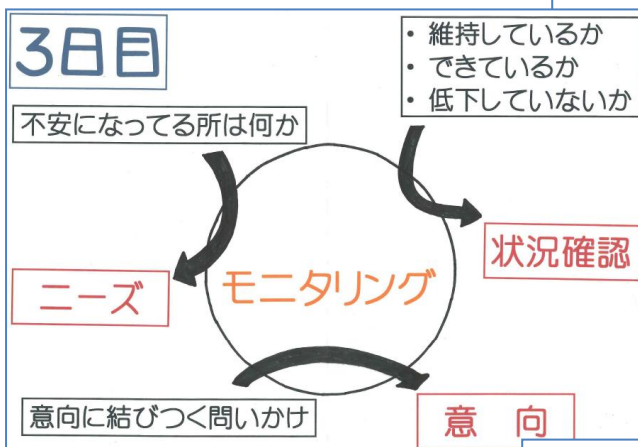
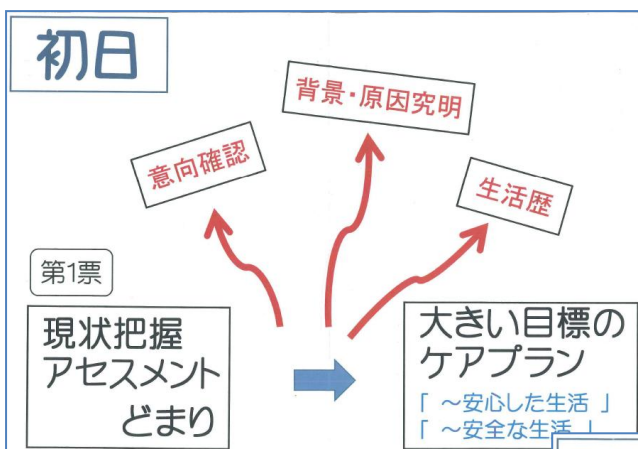
プレゼンテーション風景（ホワイトボードでの発表）



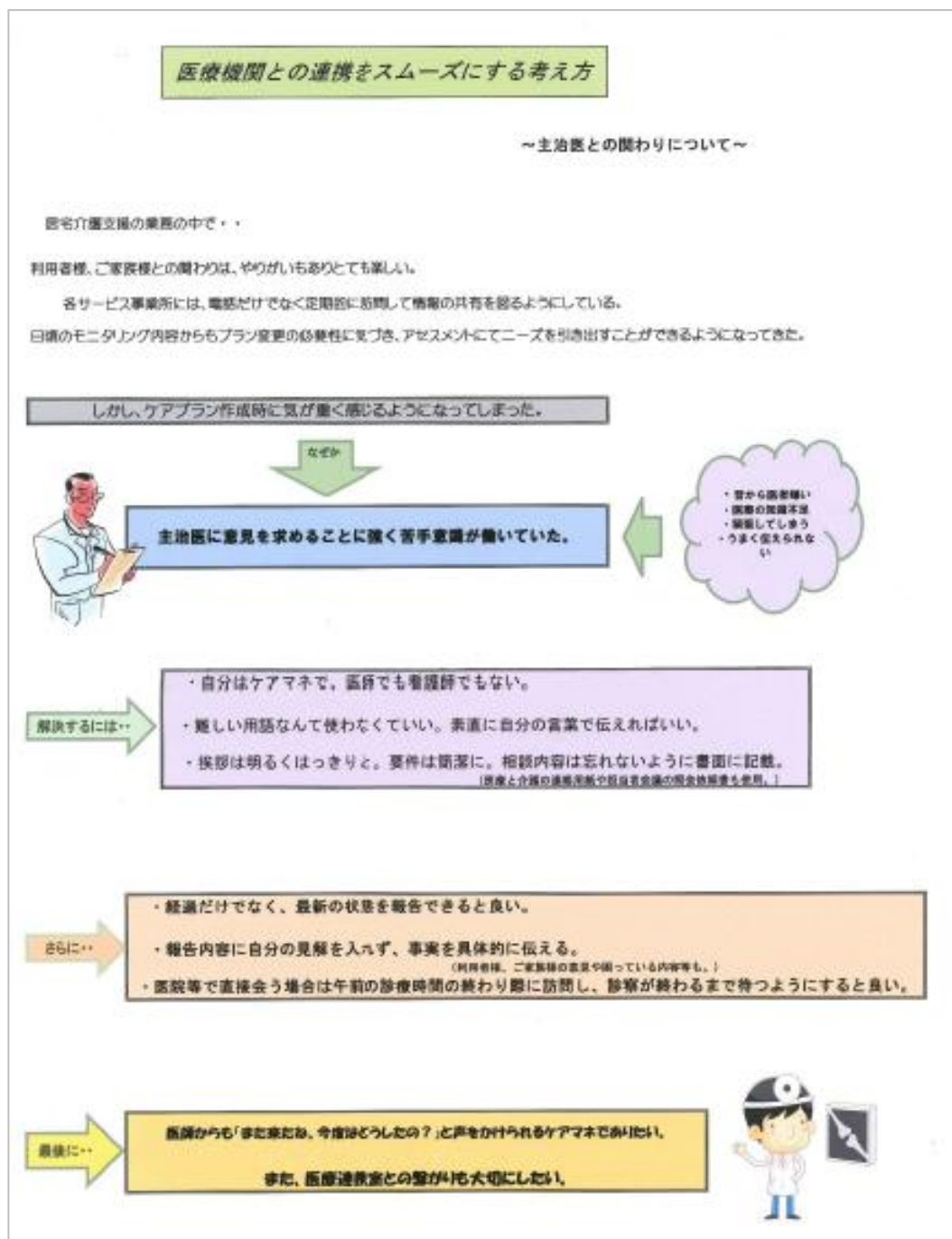
プレゼンテーション風景（紙芝居での発表）




[プレゼンテーション資料例 その1]



[プレゼンテーション資料例 その2]



[プレゼンテーション資料例 その3]



この研修ってどんな研修だろう…
別事業所のケアマネと話しができる
いい機会かも…

他のケアマネの見学は
機会がないので是非したい!

事例を見てもうらうにはどうしよう?
アセスメント票は?
計画書は?

利用者さんの前で緊張せずにできるかな
利用者さんはどんな反応をするかな…
先輩のアドバイスは欲しいけど……

担当者会議について(主任ケアマネの見学)

- ・担当事業所がポイントをしっかり把握しており、報告内容が明確である
- ・通所リハビリが始まることにより、活動の範囲を広げることができる。
- ・目標に近づくことができる(細へ行く)
- ・主介護者である息子への配慮が感じられる。

学んだこと 気づき

- ・通所リハビリ開始に際しての担当者会議であり、本人が意見を主張し家族の意見などの調整を行っていく。
- ・現在の状態の把握と「細に行く」ことへの具体的な目標に向かって計画していくこと
- ・具体的な目標を示すと家族と事業所との連携がスムーズに行うことができる。

担当者会議開催する

- ①これまでの経過説明と本人・事業所の評価を行う
- ②これから通所リハビリを追加することによる効果と期待を話す。

全体的な会議のアドバイス

- ①本人の思いとこれからの希望についての確認を行っている。
 - ②各事業所の現状把握と意見を関係者と聴き、情報の共有を行っている。
 - ③病気の原因を確認し、主治医の意見を事業所に伝えている。
 - ④本人の意思を主導とした雰囲気を作っている。
 - ⑤家族の希望と自費でのヘルパー利用の説明ができています。
- 上記の評価を頂く

アドバイス

各事業所から目標の聞き取りをして、一緒に作成する方法もあるのではないかな?
目標の確認を行っていく

モニタリングについて

- ①認知症の状況把握は困難な場合がある
サービス事業所との連携を図り、どのような行動がでているか確認する
通所などは事業所に訪問しモニタリングを行う。
自分の目で確認できることは訪問し確認する。
- ②認知症のモニタリングにノートの持参するか?
- ③言葉の地域性について
本人の生き方により話しかけ方に工夫する
本人との関係性や距離感などを考慮する
- ④満足度の確認だけでなく、本人の興味のある話しなど、関係性を深める話題も必要。

今回の研修のおまけ

- ①他事業所のケアマネとの壁があり、話しにくいことがある。研修を行い考え方などを共有できたことが大変うれしい
- ②自事業所だけの意見だと考え方の偏りが感じられる時があり、他事業所の目線からアドバイスを頂けて、「これで良い」と確信した事と検討しな
いとくいけない部分の確認をする。
- ③縦の繋がりではなく、横のつながりを感じることができた。今後も考えの
幅を広げる為にも意見交換の機会を作っていくことができればと思う。
- ④たくさんの言葉を頂き、批判ではなく、評価の言葉を多く頂いたので、
自分の自信に繋がった。自分のやり方に自信が
なくなった時期にこの研修を受けることができ
気持ちの切り替えのきっかけにしたい

⑤



②



④

[プレゼンテーション資料例 その4]

1. 今回の研修内容

- ・担当者会議 (指導者)
- ・担当者会議 (受講者)
- ・モニタリング (指導者)
- ・モニタリング (受講者)
- ・集中カンファレンス
- ・訪問診療同行
- ・訪問看護同行
- ・退院時共同指導
- ・他事業所内事例検討会

3. 気づき

- ・退院前カンファレンスについては、退院後に必要なサービスを確認・調整するだけでなく、在宅復帰後少しでも不安なく生活が送れるよう設備や人員が確保された入院中に試してもらうこと (今回で言えば入浴を試みる、在宅で使用する車イスを使用し慣れてもらう) を病院に依頼していた。自分には病院に退院前の準備をしてもらうという発想が乏しかった。
- ・利用活用できる資源や制度の知識が少ないことを実感させられた。(難病患者等居宅生活支援事業等)
- ・潜在化しているニーズの把握が必要で、それを利用者や家族にも気づいてもらい解決法や対応法を提案していけるような関わりを持つ必要がある。
- ・これは介護をする家族全ての人に言えることではあるが、より医療ニーズが高い利用者介護する家族の負担や疲労を考え、家族にも配慮をした関わりが求められる。

4. 今後の自身の課題

- ・顕在化したニーズが目がいきがちで、潜在化しているニーズを把握することに時間を要している。関連の事業所と情報や意見を交換しているうちに気づくこともあるがどうしても時間がかかる。より速くそのニーズも把握できるようにアセスメントスキルを向上させる。
- ・一般的に基礎職が福祉系であると、医療ニーズが高い利用者への支援が苦手であると言われており、実際に自身もそう感じる部分は多少あった。今までは存在を認識していた程度の理解であった様々な制度をより理解する。

今回の研修を通して、アプローチの仕方は関わる職種により様々であり、連携を図り支援していく重要さやケアマネジャーとしての支援の内容、サービスの調整をしていく大変さを感じた。医療知識が向上したわけではないが、医療ニーズの高い利用者についての悩みや疑問を相談できる相手を見つけることができ、顔の見える関係性の第一歩を踏むことができた。初めは相談しながらはなるが、自身に支援を任せてくれる利用者との縁があれば、ぜひ担当できれば…思った。

研修の振り返り

- 受講者は振り返り用紙の所定項目を記入し、アドバイザーに渡します。
- アドバイザーは、受講者と所属事業所管理者へのメッセージを記入して受講者に返します。



【作成資料】

- 振り返り用紙

【提出資料】

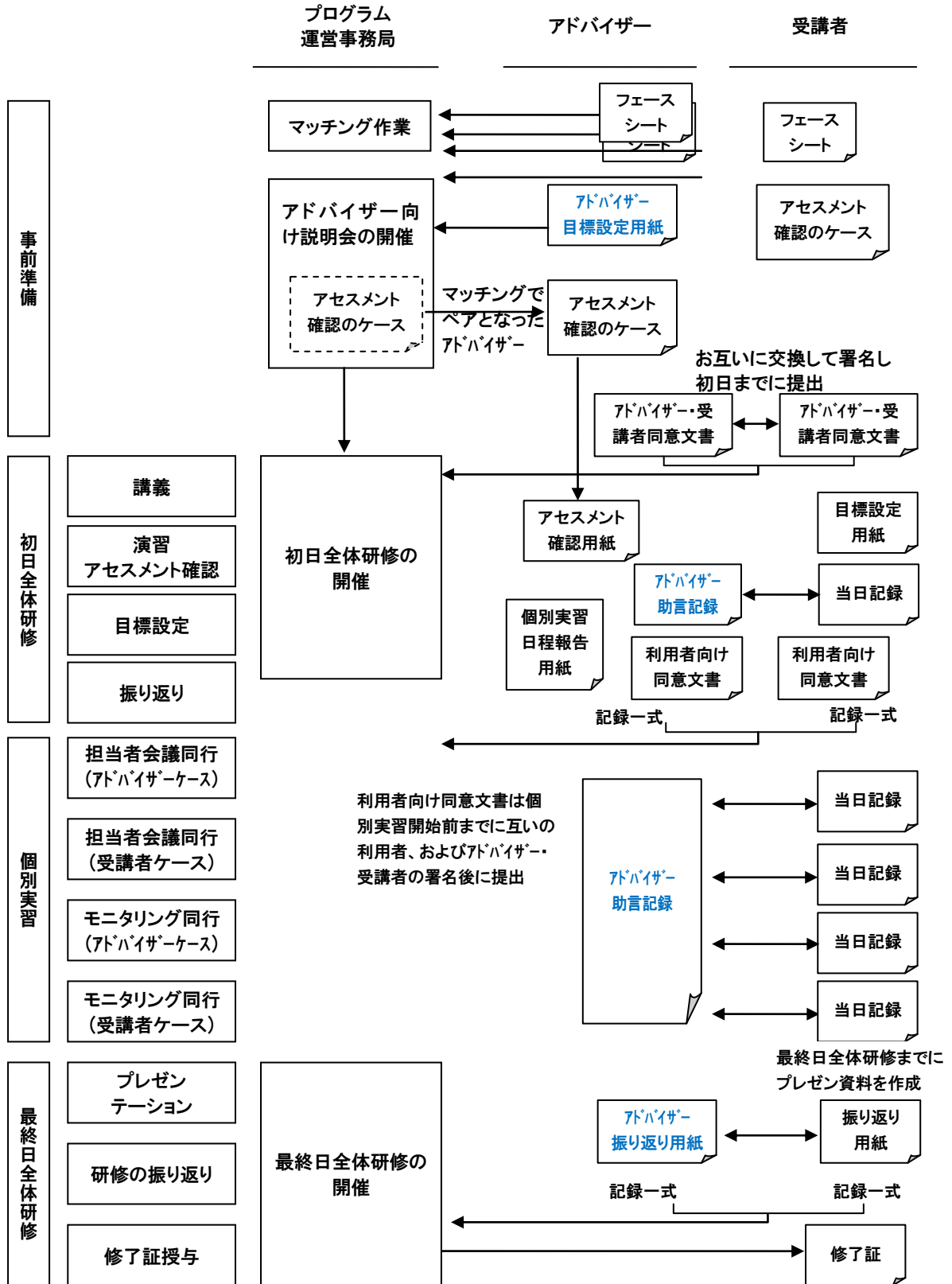
- [様式 8 : 当日記録]
 - ②担当者会議 (アドバイザーケース)
 - ③担当者会議 (受講者ケース)
 - ④モニタリング (アドバイザーケース)
 - ⑤モニタリング (受講者ケース)
- **[様式 9:振り返り用紙]**

修了証の授与

- 受講者に地域リーダーまたは運営事務局等から、修了証を授与します。



実施内容のフロー



※青字 (アドバイザー向け) 帳票は、別冊「アドバイザーの手引き」をご参照ください。